2026年9月11日 『朝礼時講話～連絡事項』

(1)講話【すべてのご縁は、私のためにあった…と言えたなら】

今日は、私が小学校５年生の時に出会った言葉に触れながらお話しして参りたいと思います。

『わたしの優しさは、父の優しさである。わたしの強さは、母の強さである。
今日も私の中に生きている。』

と、このような言葉でした。この話をすると、時に単純な言葉をお話しなさる方もいて、『私の父は決して優しい人ではありませんでした。』とか『私の母は弱い人でしたので…』などといただく事がありまして…。でも、皆さんお分かりの通り、この言葉はあくまでも事例をあげているだけであって、この言葉が伝えようとしている本意は、どんな人も、どんな出来事も、そのご縁は何かしら私に与えてくれたものがある、という事でしょう。その与えられたものは、時に優しさなのかも知れないし、時に強さなのかも知れない。いやいや、あんな人からは何の学ぶものもなかった…なんて出会いがあったとしても、それを反面教師として学ぶご縁となったのかも知れない。当時は気づけなかった見方や捉え方が、今となってはできるかも知れませんよね。

２か月前の朝礼で、私は学生で、バスケット部に所属していた時のお話しをしましたが、その時、**〝お前のせいで負けたんやぞ！〟**と落ち込んでいる私に畳みかける言葉を浴びせてきて、その後も１年チクチク嫌な言葉を言われ続けて、**〝何で自分だけこんな目に合わなきゃないのか…〟**と孤独感に苛まれた辛い日々だったけれど、その憎らしい先輩の言葉や態度もまた、私が大切な事に気づくために必要なご縁だったのだということなのです。

孤独を感じている人がいたら、自分のことに重なって案じる気持ちを持てるようになっていた。
自分自身が尖がっていたから、自業自得でしっぺ返しが来たのかも知れない。それでも、あの先輩のような接し方では、優しい空気は決して生まれない。これから出会いゆく人たちには配慮をもって。

という気づきを与えてくれる出会いだった事なのでしょう。

とか何とか広い心を持ったかのようなお話をしましたが、仮に30年経った今、その先輩に再会したとしたら、嫌な思いが再燃してしまうくらい、変わらない未熟な私でしかないのかも知れません。

それでも、どのご縁も無駄なものは何一つないのだとやはり申し上げたい…。良い事だけを良きご縁とするあり方ではなく、悪い、嫌だと私が感じている人も場面もまた、私の考え方を、捉え方を育ててくださる、そんな尊いご縁としていけるかどうか。

そう捉え直し、受け直していく事が今の私には難しくても、仏法を何度も何度も聴き続けていく事で、息を引きとる頃にようやく、**〝自分の人生にとって、良い事も悪い事も、嬉しい事も悲しく辛い事も、全部必要だった。この私にならせてくれたご縁でした〟**と言えたらいいなぁと思っています。

今日は、ふんわりした内容になってしまいましたが、関わるすべての因縁が、私の人生(果)に贈り物として届けられているのだと言い聞かせながら、朝礼講話と致します。

(2) 連絡事項 【講話+①② ＝ 理事長】

① 今月の行事ですが、９月24日(木)、16時から光寿苑敬老式典が予定されています。昨年度同様、交流ホームにおいて、一堂に会してお祝い膳を召し上がって頂きたいと思います。また、９月27日(日)の10時30分より、津軽三味線ミニライブを交流ホームにて予定しております。

② カイテクというスポットバイトのスタイルで、介護にお手伝い下さる方が３名、12日、13日、20日と14時～18時の予定でご出向頂きます。まだ、使い慣れていないシステムですが、お年寄りの暮らしを一緒に支えて頂くために開始します。詳細は、『カイテクさんへの対応』をご確認下さい。